

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700133		
法人名	特定非営利活動法人 太良の里		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホーム 太良の里		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐2491番地1		
自己評価作成日	令和6年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月29日	外部評価確定日	令和6年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季折々の木々や花に囲まれた自然豊かな環境、また自宅で過ごしているような生活空間で、人と人との温かい関わり合いを楽しんでいただきながら、お一人お一人のニーズに合った支援を受けてゆつくりと安心して過ごしていただけるグループホーム運営を目指しています。細やかに日々の健康状態を把握しつつ、機能訓練やレクリエーション活動を通してADL(日常生活動作)の低下を抑えたり、施設の畑で栽培された新鮮な旬の野菜や果物を召し上がっていただいたりしながら健康的な生活をサポートさせていただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>田園の中の大きな赤い屋根と赤いレンガの家がグループホーム太良の里である。広い庭園にはねむの木やどんぐりの木などの樹木があり、季節のうつろいを感じることができる。散歩道が整備されており、また木の下にはテーブルや椅子が置かれており、「太良の里カフェ」となることもある。菜園では季節の野菜が育っている。実ったら利用者と職員の共同作業で調理されテーブルに並ぶ。隣接する敷地内に避難所を建設し、自然災害にも備えている。創設時に作成された理念「ゆつくりと自分らしくそして共に生きる」を今も大事にしている。コロナ禍で外部との交流は自粛していたが、適切な感染対策をしたうえで交流の機会を増やしていきたいと考えている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	太良の里の理念「ゆっくりと自分らしくそして共に生きる」をもとに、施設としての年間目標、月の目標を職員全体で確認しつつ、職員一人一人が個々に月の目標を掲げて、より具体的に施設理念の実践に努めている。	創設当時の先代理事長の強い思いがある。寄り添う介護を基本とする理念である。利用者とその家族、職員、代表者の信頼関係が大事だと思っている。その思いは現管理者にも引き継がれている。職員の目標設定については自由目標として、無理強いはいしていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨今、近隣地域でも新型コロナウイルスに加えてインフルエンザが流行しており、感染予防を徹底する状況は続いている。地域の行事等もまだ再開していないこともあり、以前のように地域住民と関わる機会はないが、近隣の散歩の時など感染のリスクが低い状況では、住民の方々と挨拶や話をしている。	地域の自治会にも加入し、定例で行われる地域の溝掃除等には職員が参加している。近くのいちご農家さんからはいちごの収穫時期には声をかけて頂き、いちごの収穫を楽しんでいる。施設に隣接する2階建ての建物は災害時の避難場所として地域の人にも利用してもらいたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には独居生活をしている高齢者が多く、入居問い合わせなどの際には、認知症の方に対する接し方や支援の仕方についてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、地域包括支援センターや社会福祉協議会、また地域の住民の方々や入居後家族など参加者が増え、施設運営について多くのご意見をいただくことができ、有意義な会議を行うことができた。いただいた貴重なご意見は、可能な限り運営に活かしていきたい。	年6回開催している。利用者の健康、生活状況、行事内容の報告のほかに、介護者の高齢化や人員不足、特定技能実習生雇用、自然災害、地域の高齢化の問題など多岐にわたる議題で意見交換が行われている。令和5年度は家族の参加の機会はなかったが、令和6年度は積極的に参加の声掛けをしていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種手続きや入居に関する問い合わせ、相談など、日常的に連絡を取り合っている。行政との関係を良好に保ちながら、入居者への対応や施設運営がスムーズにいくよう努めている。	施設の管理者は太良町地域包括ケアシステム研究会構成メンバー25人の中の1人である。行政担当者に、現場の現状や課題を伝えると同時に解決に向けた取り組みを共働している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最低月に1回は全職員参加の会議の中で、身体拘束に関する確認の機会をもち、身体拘束を行わないという姿勢で日々の介護を実践している。常に入居者の安全、生命を守ることを第一とし、職員間で情報交換しながらよりよい介護の方法を検討して様々な工夫を尽くしている。	職員は拘束のない支援の意識を持っている。年6回行われる近隣市町村12グループの交流会では研修テーマとして取り上げられるため参加した職員は毎月の勉強会で伝達している。玄関に施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最低月に1回虐待の防止に関する話し合いの場をもち、全職員で虐待防止への意識を高めるようにしている。高齢者虐待防止関連法についての研修会にも積極的に参加してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について、研修会に参加するなどして学習しているが、制度の活用が必要な事例は今のところ上がっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居の際、利用者家族に対して不安、疑問点が生じないように十分な説明を行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険事務所より2名の介護相談員に定期的に来所してもらい、入居者の要望や意見の聞き取りを行っている。また、利用者やご家族がサービスに関する意見、要望を職員に伝えることができるよう、「みなさまの声」の用紙を設置している。また小まめに入居者の状態を家族に電話連絡し、要望等を聞くよう心掛けている。	家族との面会時には、職員が付き添い、日々の様子を伝えるだけでなく、家族の想いを聞くようにしている。整髪はカットだけでなくカラーリングをしてほしい、おしゃれな母だったからとの要望を受けてカラーリングをしたこともある。また同性介助(入浴時)を希望される家族もあった。できるだけ意向に沿うよう心掛けているが、難しい時は十分に話し合うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例職員ミーティング及び日々の朝礼ミーティング時に運営に関する意見、要望、提案につき聴取し、検討した上で運営に活かすようにしている。	1つの事例として朝食を外部からの配食サービスを導入したことで、朝、起床後のトイレ、洗面、更衣などの一連の手助けの時間に余裕を持つことができた。利用者、職員ともに高評価となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者や管理者が運営や管理について職員の声に耳を傾け、可能な限り運営に反映させている。勤務体制についても管理者と職員間の話し合いの納得の上で調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修会やグループホーム交流会(12事業所)の年6回の集まりを利用し、管理者および職員が各種研修に参加し、介護力アップを図っている。また、ミーティング等で業務に必要な情報を周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	太良町内は下記の福祉施設があり運営者職員は連携を図り交流している。 ・太良町社会福祉協議会・太良町地域包括支援センター・高齢福祉施設・光風荘・太良病院 居宅介護支援センター・高齢者保健施設・ふるさとの森・太良町社協・宅老所おおうら鹿島 太良塩田グループホーム交流会。 平成21年6月より合計12事業所による交流会を発足させ下記内容につき月1回開催している。 ・運営部会・管理者部会・介護者部会・ケアマネジャー部会		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを立てる際には十分な聴き取りを行い、要望をしっかりと把握するようにしている。入居者の気持ちに寄り添い、傾聴の姿勢を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、家族との十分な話し合いの時間を設けている。家族の困り感、要望をしっかりと受け止め、安心して入居させることができるよう家族に対しても支援する態度で向き合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時本人、家族の実情の要望を元にして可能な限り対応している。また事業所として対応不可のサービスについては病院等と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する一される」一方的な縦の関係の見直し「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係づくりをしながら入居者に対する尊厳の気持ちをもちつつ介護に当たるよう、職員にはミーティング等で指導している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日常的に連絡を入れて入居者の状況を伝え、今現在の支援の必要について理解していただくよう心掛け、施設側の一方的な介護になってしまわないよう注意している。また、症状の改善や情緒の安定などよい情報については特に共有し、ともに喜び合えるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人との音信が絶えない様、状況に応じ、ライン、電話、ハガキ、手紙を書く事などを勧めるなど、これ迄の関係が保たれる様、支援している。	コロナ感染の経験で利用者も職員も、普通の暮らしができない、自室に閉じこもらなければならないという辛い思いをしたこともあり、まだ外部との交流は自粛しているが、家族のアンケートでは「家族との交流の時間を増やしてほしい」「大切な人と会いたい」との意向もあったことから、今後みんなの想いを汲みながら慎重に進めていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には入居者それぞれの意向を尊重し、入居者の経歴、趣味、性格等を把握した上で、個々に合った活動を提供するよう心掛けられている。また、入居者同士が関わり合いながら楽しく過ごせるよう関係づくりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した際、直接本人に関わる機会はないが、退居後も家族とは良好な関係を保ち、現在の状況を尋ねたり相談に応じたりするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が入居者一人ひとりの思いや意向について関心をもち、できるだけ入居者のことばに耳を傾け、可能なことは実現できるようにし、入居者の側に立った対応ができるよう心掛けている。	利用者に寄り添うケアを心掛けている。本音を聞けるのは入浴介助の時である。1対1での時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談受け付け時及び入居時に入居希望者(事前入居時)調査表に基づき、生活歴、生活環境、これまでの経過などを把握し、以降の生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとり一人の健康、精神そして生活状態を観察し記録し、申し送り事項と共に後任者に引き継ぐなど総合的にチームとして把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成の基本方針として「入居希望者調査表」情報をもとに本人、家族、担当ケアマネジャーと協議の上作成し、入居後は本人の意向を折込み見直し(3ヶ月毎)を行い家族の同意捺印を頂いている。また、施設内でケアプラン会議を開き、目標や評価について全職員で話し合い、その妥当性を確認している。	本人の希望は日々の暮らしの中で知り得たことを意向としている。家族の意向は面会時などで確認している。計画作成者が看護師ということもあり医療面でのサポートがより詳細に記載されたものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々細やかな視点で介護記録を残し、引継ぎをしっかりと行った上で介護に当たっている。またそれをもとに、介護計画を見直し、より実態に即した介護を提供できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画書に記載された介護支援を行った上で、当施設の特性を生かした活動を取り入れながら変化のある共同生活を心掛けている。また、ご家族や本人の意向を可能な限り反映することができるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティア活動・教育機関・警察・消防署・自治会(老人会)・町役場など地域の皆様に協力して頂きながら運営を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急事態に備え、町内にある病院をかかりつけ病院、主治医としているが、専門医が必要な場合、主治医の判断で専門医を紹介してもらっており、必要な医療を受けることができている。	定期的な病院受診は家族の協力もあるが、日頃の状態を知っている職員が対応することが多い。入居前のかかりつけ医の変更については利用者と家族とで十分話し合いを行い、納得いただいたうえでやっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護歴40年のベテランの看護師が施設に勤務している。看護師の指導のもと介護職員は入居者それぞれの健康状態をはじめ、生活状況を詳細に把握し、的確かつ迅速な受診対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と常時情報交換し、入居者の健康管理や医療活用の支援を得ている。入居者が入院した場合、より短期間に医療が終了し、退院ができるよう病院関係者、ご家族とカンファレンスを行うなどして検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を中心に介護職員一同、重度化傾向に向かう入居者を含め全入居者の健康状態を把握し、家族、訪問看護、施設間において情報を密にしている。また、入居時に重度化した場合や終末期の在り方について話し合う機会を設けている。	長年過ごしたグループホームで最期を希望される利用者を看取った経験はある。看護師はいるが喀痰研修を受けた職員はいない。主治医の往診と訪問看護を導入し対応した。利用者や家族の意向が日々変化することを踏まえ、十分な話し合いを重ね、適切に対応することが大事と考えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態発生時の対応マニュアルを作成し、全ての職員が応急手当や初期対応が冷静にかつ適切に実施出来るよう定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設横に避難所を建築し、基礎を1m以上高くして川の氾濫、高潮、津波対応ができる。また、職員の多数が2～10分で自宅より緊急出動することが可能である。平成22年4月にスプリンクラー装備を設置し火災時には、消防署及び職員宅に即自動通報する様体制を整えている。今後は災害時に地域の協力を得られるよう消防団や自治会との関係を深めていきたい。	ハザードマップ等からも自然災害(水害、高波など)の危険があることは熟知されており、対策を講じられている。その一つに隣接して2階建ての避難所が建設されている。年2回の避難訓練は利用者も一緒に避難を体験されている。月1回の勉強会でもマニュアルからの手順を確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員採用時に誓約書を書かせ、また日常勤務時にも教育をして厳守させている。また、パーソンセンタードケアの精神で介護に当たること、入居者の尊厳を守る介護を行うことについて研修する機会を設けている。	パーソンセンタードケアの精神とは その人の価値を尊重し、介護する側がその人の視点に立ってみるという考え方である。利用者と職員の信頼関係がキーワードとなるケアである。利用者と職員は笑顔で過ごされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、常に傾聴の姿勢で入居者の声に耳を傾けるように心がけている。意思表示が難しい入居者にも選択できるよう選択肢を用意して自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で入居者の意向を優先し、その方が心穏やかに安心して生活できるように支援している。フロアに集まってともに活動を楽しむことを喜ばれる方もいれば、自室でゆっくりと過ごすことを好む方もおられるのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度は美容師によるヘアケア、フェイスクケアを受ける機会を設けている。ときにはネイルアートやメイクを楽しんでもらう活動を取り入れることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の前準備など個々人の能力に応じ職員と一緒にやっている。野菜の下処理や漬物作り、おやつ作りなど職員とともに行う機会も多い。旬の食べ物に触れることで話題も増え、食欲も増進している様子が見受けられる。	昼食と夕食は担当の職員の手作りである。肉や魚のメニューが重ならないよう配慮しながら、園の畑で収穫された旬の野菜が多く使われている。小さな芽から育っていく過程を見てきた野菜を食する楽しみもある。大きなスイカを収穫することができたときは重さ当てゲームを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々、食事の様子観察と食事量の記録を行い、健康状態の把握につなげている。義歯の方でも食べやすいものを提供し、食事以外の水分補給も定時で確実に行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、食後のうがい又は歯みがきを丁寧に行えるよう支援している。2か月に1度、歯科医の往診により、口腔内のチェックを行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全ての入居者に対して職員が見守ったり一部介助をしたりして、トイレでの排泄を誘導している。全居室にポータブルトイレを設置し、体調や歩行状態に合わせて使用できるようにしている。	昼間は全員がトイレでの排泄である。排泄チェック表を見ながら職員の声掛けのタイミングにより、紙パンツやパットなどの使用枚数が改善され、それは費用負担の軽減に繋がっている。トイレ内は車いすや職員が介助に入っても十分な広さがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を改善するため、食生活を工夫し、適度な運動及び歩行などできるだけ自然排便ができるよう促している。また、医師にも相談しながら、必要に応じて薬も使用しつつ、排便コントロールしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者が寛いだ気分で時間を気にせず入浴出来るように心掛けている。また姿勢の保持が難しい入居者も安全に入浴ができるよう細心の注意を払い介助している。入浴の日時や時間帯は、施設の運営上の都合で設定している。	入浴は基本的に週2回、午前中としている。浴室の準備は毎日できており、希望があればいつでも入浴できる。5月5日はしょうぶ湯、冬至にはゆず湯など風習も大事にしている。浴槽の中でゆっくり身体をほぐしながら、職員との本音の会話も楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整え、日中は様々な活動に取り組めるようにすることで夜間に安眠できるように促している。また、日中も体調に応じて居室で横になることができるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬の目的、副作用、用法、用量については共有、理解している。心身上の変化や異状があった場合医師、薬剤師、家族に連絡する。以上の記録は「身体介護記録表」に詳細に記入し、フォローしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、志向を把握し、レクリエーションなどに反映させている。コロナ禍にあつて外出の機会が少なくなっている分、施設内での楽しみの時間を増やすよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減っているが、車からの紅葉狩りや花見などする機会を設けている。また近隣の自然散策など感染リスクの低い活動は可能な範囲で取り入れている。施設の庭での昼食会、お茶会なども行い良い気分転換になっている。	施設の前の道路は車の行き来も少なく、安全な散歩道である。天候の良い日はみんなで出かけることもある。外に出ることを嫌う利用者には無理強いすることなく、ベランダでの日光浴の声掛けをしている。通院の帰りに家族との外食を楽しまれる利用者も居られる	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭の管理は施設で行っているが、入居者の希望、能力に応じ、一部お金を所持したり使用出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望に合わせて、自宅や親戚に電話を使ってやり取りができるよう支援している。また、携帯電話を所持し、日常的に活用している方も複数おられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは完全なバリアフリーですべり止め、手摺りが設置され安全な生活空間の確保、又採光、通風についても空調機、換気扇の設置の他自然採光、通風にも配慮し居心地よく過ごしていただいている。大きな窓やベランダからは四季折々の木々や花々をいつも眺めることができる。	高い天井と大きい窓は開放感がある。朝陽が眩しいとの利用者からの訴えがあり、遮光対策も行われている。リビングに置かれたグランドピアノで生演奏を楽しむ時間もある。町の図書館からの定期便(2週に1回)の本箱が置かれている。新聞や雑誌もある。リビングから続くベランダはレクリエーションなどを楽しむ場でもある。いつ頃からか出入りするようになった猫が窓越しにのぞいている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす居室の他、談笑するリビング、和室そしてベランダ、又敷地内には花だん雑木林があり、複数人で談笑できる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等自由に持ち込みむことができ、自分らしく安心して過ごせる場所として利用してもらっている。	居室に持ち込む品物は 火気等の危険物以外は制限はない。居室は唯一のプライベートの場所であり、利用者一人ひとりが自分らしく落ち着いて暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は完全なバリアフリーと共に全場所にすべり止め及び手摺を設置している。職員の見守りの上、それぞれが好きなことをして過ごせるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない